

出荷のピークを迎える 家族総出で収穫

11月下旬から2月上旬までに植え付けられた春物の「赤土バレイショ」が、早場地帯で4月上旬から収穫が始まり、全体的には4月中旬からまとまった出荷となり、ゴールデンウィークにピークを迎えました。

最盛期となった5月の連休中には、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そして小さな子どもたちまで一家総出で収穫に追われた家庭が多かったようです。

鹿児島県農協によると、早春物の栽培面積は160㌔で、12月に入るとまでは順調な生育でしたが、12月中旬に雪や霜が相次いで寒害を受け、販売量は計画の4割減となりました。

一方、春バレイショの栽培面積は350㌔で、2月までは気温低下の影響を受け、全般的に約2週間程度の生育遅れとなっていました。3月上旬からの気温上昇により品質も良好で順調な生育となりました。

(数値は農協共販)



かごしまブランドにも指定されている「赤土バレイショ」の収穫

